

一 告 告



高橋 仙実 (たかはし ひみemi)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
建築学専攻  
博士前期課程一年  
京都府 美山高等学校出身

兄がこの大学の建築学科の出身であること。高校の先生が後押ししてくれたこと。オープンキャンパスで好印象をもったこと。いくつかの要因が重なって、ともかく入学へ。高橋さんは二年生の設計課題が始まったとき、宮下智裕先生に、大阪で開催する世界を変えた書物展を手伝って、と言われてから向学心に火がついた。

## 「世界を変えた書物」展の統括リーダーを担当しました。

「宮下先生は何度でも教えてくれますし、すごくわかりやすい。今度の東京展では学生二十名の統括リーダーで、主にメイン空間の『知の森』という稀観本の担当です。原書の迫力はすごいんですけど、感銘を受けたのは本と本のつながりです。この一冊でもなかったら現在はないと。それを思うと、自分がしたいことを残すというこ

とは世界に貢献する行為であって、それが一番の収穫でしたね。」

東京展は上野の森美術館で九月八日から二十四日まで。世界を変えた書物とは、金沢工大が所蔵するコレクション。工学の曙文庫のことであり、これまで金沢、名古屋、大阪で開催されてきた。

「こういう機会は、なかなかないですね。この大学は学生がやりたいと思ったことに扉を開いてくれるところが大きいです。卒業設計は『ウチウラ再紡—鎖国を侵蝕するノマド童』。祖母宅がある京都祇園の宮川町が舞台ですが、花街の疑似家族みたいな関係を、もう一度、町に取り戻そうというプロジェクト。中部卒業設計展で橋本健史賞をいただきました。」

私自身もかつて金沢東山の花街プロジェクトに参加したので、高橋さんの作品には深い感動を覚えた。劇作家・編集者の才覚も感じる。そのキーワードやフレーズ

に圧倒的な力があるのだ。

「母が小説を書いていた時期があつて、小さいころから本ばかり読まされていました。だから、日本語遊びが好きだし、この大学では課題やレポートの提出が多いんですが、それが楽しいんですよ。昔の価値を今に再解釈したり、翻訳したりするのを宮下先生はつねに教えられていて、先生の言葉では再編ですが、その結果が私の卒業設計だったんだと思います。」

指導する宮下智裕准教授の専門は建築意匠、構法デザインだが、その活動領域は広い。学内外のネットワークを活用して、学生たちを次から次へとフィールドワークに参加させていく行動的な研究室だ。高橋さんは、全国の町を見て歩くこと、そして海外の都市をめぐる旅を始めようとしていた。

### 金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七-1  
電話番号 〇七六二四八二〇〇

KIT  
キャンパス  
レポート ④  
文・出島二郎  
マーケティングプランナー